

第 72 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：令和 3 年 5 月 28 日（金）16 時 30 分～18 時 05 分

会場：zoom によるオンライン実施

テーマ：「**新任教員が携わる災害科学研究**」

16:30～16:35 司会・進行より趣旨及び Web 開催上の留意点の説明

16:35～17:05 （発表 20 分，質疑 10 分）

「**災害大国は自然生態系とどう付き合えばいいのか**」

話題提供者：内田 典子（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

概要：気候変動緩和や地域経済の復興など多様な社会の課題に対し、自然を基盤とした方法により多面的に解決すること（Nature-based Solutions）が世界の主流となりつつある。日本においては、人間社会の安全安心と自然生態系の保全の両立において震災後 10 年から得た教訓をどう活かし実践するのかが示すことが、国際的にも重要である。本発表では震災以降における沿岸域生態系の変化についての概観、および今後の研究展開等について議論したい。

17:05～17:35 （発表 20 分，質疑 10 分）

「**感染症による災害と戦うための治療薬開発**」

話題提供者：林 宏典（災害医学研究部門 災害感染症学分野）

概要：新型コロナウイルスが示したようにウイルス感染症が一旦アウトブレイクを起こすと世界規模での災害となる。現在進行形で発生しているパンデミックの早期終息と新たな発生の予防のため、新規抗ウイルス薬および抗菌薬開発を行っている。本発表では、これまでに行ってきた抗ウイルス薬開発の例として、エイズ治療薬や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）治療薬などについて報告する。

17:35～18:05 （発表 20 分，質疑 10 分）

「**河成段丘から読み解く土砂移動と地殻変動—河川・地震災害評価への活用—**」

話題提供者：高橋 尚志（災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野）

概要：河川の侵食・運搬・堆積作用の結果として形成される河成段丘は、仙台や東京といった大都市の基盤を成し、人間活動の場となることも多い。しかしそれだけでなく、河成段丘からは、気候水文環境や地殻変動に関する多くの情報を得ることができる。本発表では、河成段丘の形成過程や、それを応用した災害評価に関する最新の研究事例を紹介したうえで、それらの現状と今後の研究活動の展望について述べる。

司会・進行：石澤 堯史（災害評価・低減研究部門 陸域地震学・火山学研究分野）